

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]

(令和2年4月解析分)

1 今月のトピックス

新型コロナウイルス感染症以外にも、これからの時期、特に注意すべき感染症があります。いずれも、手洗いの励行が基本です。

(1) 咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は、発熱、咽頭炎、眼症状を主とする小児の急性ウイルス性感染症で、プールでの感染も多くみられることから「プール熱」とも呼ばれます。

病原体	アデノウイルス
症状	発熱で発症し、頭痛、食欲不振、全身倦怠感とともに、咽頭炎による咽頭痛、結膜炎に伴う結膜充血、眼痛等を訴え、3～5日間程持続します。 眼症状は、一般的に片方から始まり、その後、片方にも出現します。潜伏期は5～7日とされています。
感染経路	飛沫感染、接触感染
予防方法	・手洗いとうがいの励行が基本となります。 ・プールや温泉施設を利用する際は、前後にシャワーを必ず浴び、タオルの共用は避けましょう。

(2) 手足口病

手足口病は、口の中や手足などに水疱性の発疹が出る急性のウイルス感染症です。

乳児・幼児を中心に、夏季に流行が見られます。例年5月下旬から定点医療機関からの報告患者数が増加する傾向にあり、これからの時期、流行には注意が必要です。

病原体	コクサッキーウイルスA16, 10型, エンテロウイルス71型
症状	感染から3～5日の潜伏期間の後に、口の中、手、足などに2～3mmの水疱性発疹が現れます。発熱は比較的軽く、高熱が続くことは通常はありません。一般的には、数日間で治癒する予後良好の感染症です。 ただし、発疹の初期2～3日の症状の変化には注意が必要で、特に、元気がない、頭痛・嘔吐を伴う、高熱を伴う、発熱が2日以上続く、などが見られた場合には、かかりつけ医に受診するようにしてください。 また、まれに重症化や合併症を伴う場合があります。特にエンテロウイルス71型に感染した場合は、髄膜炎、脳炎などの中枢神経系合併症を生ずる割合が高いことが明らかとなっています。
感染経路	飛沫感染、接触感染、経口感染
予防方法	・手洗いの励行が基本となります。 ・特に、おむつ交換をするときには、排泄物を適切に処理し、しっかり手洗いをしてください。 ・有効なワクチンはありません。

(3) 伝染性紅斑

伝染性紅斑は、両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」と呼ばれる幼児を中心に流行する感染症です。

病原体	ヒトパルボウイルスB19
症状	感染後10～20日で出現する両頬の境界鮮明な紅斑が特徴で、続いて腕、脚部にも両側性にレース用の紅斑が見られます。発熱があっても軽度です。成人では、両頬の紅斑は少ないですが、合併症である関節痛・関節炎の頻度が、小児の約10%以下と比較して成人男性で約30%、成人女性で約60%と高率です。また、 <u>妊婦が感染すると、胎児水腫や流産の可能性があり</u> ます。その他、免疫不全症の方が感染すると、治療が必要な慢性の貧血となる場合もあります。
感染経路	このウイルスはヒトのみの感染し、飛沫感染か接触感染による気道からの感染と考えられています。
予防方法	手洗いが基本となります。特に妊娠されている方は、流行時期には人ごみを避けるなど注意しましょう。

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和2年3月分(令和2年3月2日～令和2年4月5日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	544	0.96	6.71	↓	10	ヘルパンギーナ	7	0.02	0.02	
2	RSウイルス感染症	57	0.16	0.29	↓	11	流行性耳下腺炎	23	0.06	0.39	→
3	咽頭結膜熱	158	0.45	0.43	↔	12	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.01	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	502	1.41	2.32	↔	13	流行性角結膜炎	39	0.41	0.55	↔
5	感染性胃腸炎	1,034	2.91	7.34	↔	14	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	
6	水痘	88	0.25	0.21	↔	15	無菌性髄膜炎	0	0.00	0.01	
7	手足口病	11	0.03	0.14	↓	16	マイコプラズマ肺炎	20	0.19	0.11	→
8	伝染性紅斑	64	0.18	0.18	↔	17	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	
9	突発性発しん	102	0.29	0.35	↔	18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6	0.06	0.70	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和2年3月分(3月1日～3月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	89	3.87	2.14	↔	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	66	3.14	3.52	→
20	性器ヘルペスウイルス感染症	21	0.91	0.83	→	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5	0.24	0.33	
21	尖圭コンジローマ	20	0.87	0.53	↔	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.09	
22	淋菌感染症	23	1.00	0.60	↔						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

発生記号(前月と比較)

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)	
○急増疾患	なし
○急減疾患	インフルエンザ (5.49 → 0.96) RSウイルス感染症 (0.36 → 0.16) 手足口病 (0.06 → 0.03)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↔	↔	1:1.5～2の増減
微増減	↔	↔	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象18疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

対象疾病No.	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
	1	1～11	12, 13	19～22	14～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類等感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	36	結核(36)〔西部保健所(3), 東部保健所(2), 北部保健所(1), 広島市保健所(8), 西部東保健所(3), 呉市保健所(8), 福山市保健所(11)〕
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症(1)〔呉市保健所(1)〕 パラチフス(1)〔広島市保健所(1)〕
四類	5	E型肝炎(2)〔広島市保健所(1), 北部保健所(1)〕 A型肝炎(1)〔広島市保健所(1)〕 日本紅斑熱(1)〔呉市保健所(1)〕 レジオネラ症(1)〔広島市保健所(1)〕
五類	34	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(2)〔福山市保健所(1), 広島市保健所(1)〕 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(2)〔広島市保健所(1), 福山市保健所(1)〕 侵襲性肺炎球菌感染症(8)〔広島市保健所(6), 福山市保健所(1), 西部東保健所(1)〕 梅毒(6)〔呉市保健所(2), 広島市保健所(2), 福山市保健所(2)〕 百日咳(15)〔西部東保健所(2), 広島市保健所(10), 福山市保健所(1), 呉市保健所(1), 西部保健所(1)〕 破傷風(1)〔西部保健所(1)〕
指定	6	新型コロナウイルス感染症(6)〔東部保健所(2), 広島市保健所(4)〕